



プラスチックごみ処理の研究

心
あ
つ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

(12月13日 AFP) プラスチックを有用な化学物質に変えることのできる、手法を考案したとの研究結果が11日、発表された。シンガポール・南洋理工大學 (NTU) のチームは安価で環境を損なわない触媒を用いてプラスチックを「乳酸」に変換することに成功したと発表した。生成された乳酸は発電所で発電に利用できるといふ。研究室での実験で、プラスチックと触媒となる化合物を混合して溶液を作り、この溶液に太陽灯の光を照射して分解反応を生じさせることができた。実験では、プラスチックは6日間で分解された。研究チームは将来的に、このプロセスを本物の太陽光の下で実行できるようにすることを目指している。

だがこれまでのところ、乳酸に変換できたプラスチックはごく少量にとどまっており、さらに規模を拡大して再現するには大きな課題がある。研究を進展させるには、人的資源と資金が必要となる。

プラスチックごみは、海の生態系への影響として、マイクロプラスチックとして人体への影響も危惧されています。

すでにプラスチックの処理について、研究があることに安心せず、国レベルでも各自でも努力をしてくることが必要のようです。

サンゴの回復にスピーカーを使用

世界各地で危機的な状況にあるサンゴ礁。科学者らが水中スピーカーで健康なサンゴ礁の音を流したところ、死にかけていたサンゴ礁の回復が促進される可能性があることが分かった。音響強化が修復プロセスに役立つという。英エクセター大学のトム・ゴードン氏「健康なサンゴ礁にはたくさん魚がいて、サンゴ礁が本来の機能を果たすのを助けている魚たちは音によってサンゴ礁に引き付けられる。健康なサンゴ礁にいる生物がたてる、ポンとかブーとかヒューとかいうさまざまな音を聞き、その音に向かって泳いでくる。

水中スピーカーを使って、健康なサンゴ礁をまねた音を出す実験をしたところ2倍の数の魚を呼び寄せることができた。魚は、サンゴ礁の回復の可能性を高めることができる「魚はサンゴ礁をきれいにし、サンゴの成長の場を作り、時間をかけて、より多くの生命を育み、多様な環境を作り出す。(ライターより)

編集後記

地球環境は、色々な種が影響しあって、長い時間をかけて作りあげたものだ。あらためて思いました。地球環境を壊すだけの人類から、変化する時は今より後回しにできない状況のようです。相互作用なら、人類だけがいない地球はあり得ないのだと思います。